



暇
を
許
さない

次期
侯爵様
が



次期侯爵様が
暇乞い許さないよ



王子様に
選ばれるのは

綺麗な靴が似合う
物語の女の子だけ



.....これは
普通のこと

私はただの
使用人だから

これはきつと

いやらしいことでも
ないんだから

クワン

クワン

とある貴族の
妾の娘の私は

屋敷の離れで
暮らし

家の手伝いをして
過ごしていた

異母妹がど
いたけれど

ほとんど会話を
無かったが



人の役に
立つようにと
継母様の計らいで

私は
行儀見習いに
出された

新しい
使用人？





…旦那様の御嫡男

この方は

ミケル様

お前は年はいくつ?



聞いてるんだけど

ねえ

おはようベラ

坊ちゃんはおはようございます



名前はクレアだっけ

クレアの出身はどこ?

ここにきたばかりの名前を私存じ...!!

ふうん

僕と変わらないね



も申し訳ありません!

年は来季で十になります



ミドリアです

へえ

祖母と
同じだ

坊ちやま

クレアに
御用で？

いや
用は無い

貴族の娘なのに
初日から
良い働きを
している



乳母の
イライザが珍しく
褒めていたから

どんな使用人か
気になって
見に来たんだ

イライザ様が…



光栄です



…それは…

リュシエール
侯爵次期当主
ミケル様は

ただの
使用人の
私に

度々声を
掛けてくださった

周りに
同年代に
いる方が
少ないから
だいたい

クレアは
家族の話
をしない

おまには
お前の話
が聞きたい

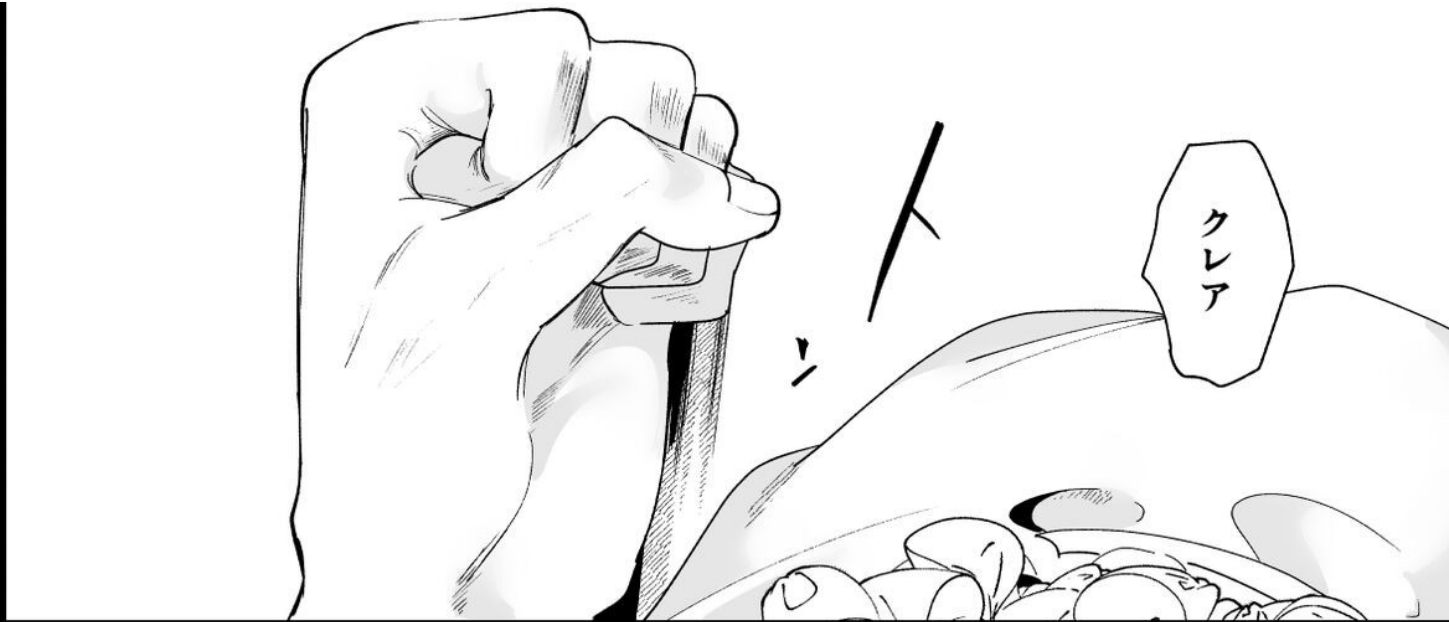
私には
妹がいます

ああ

ウスペンスキー
子爵家には

娘が
二人いると
聞いたな





僕は
お前の話が
聞きたい

昔から何度も
言ってるはずだが

……少し
難しいですが……

わかりました

……お前は
命令には
素直だな

それは
当然です
ので……？

ミケル様は
使用人にも
情け深く

字の読み書きも
本の読み方も
何でも
教えて頂けた

……とりあえず
怪我を見せろ

ミケル様が
嘘を仰ることは
一度も無かつたは

今日は
旦那様達は
社交界に
出かけている

もうずっと
家族には
会ってないけど

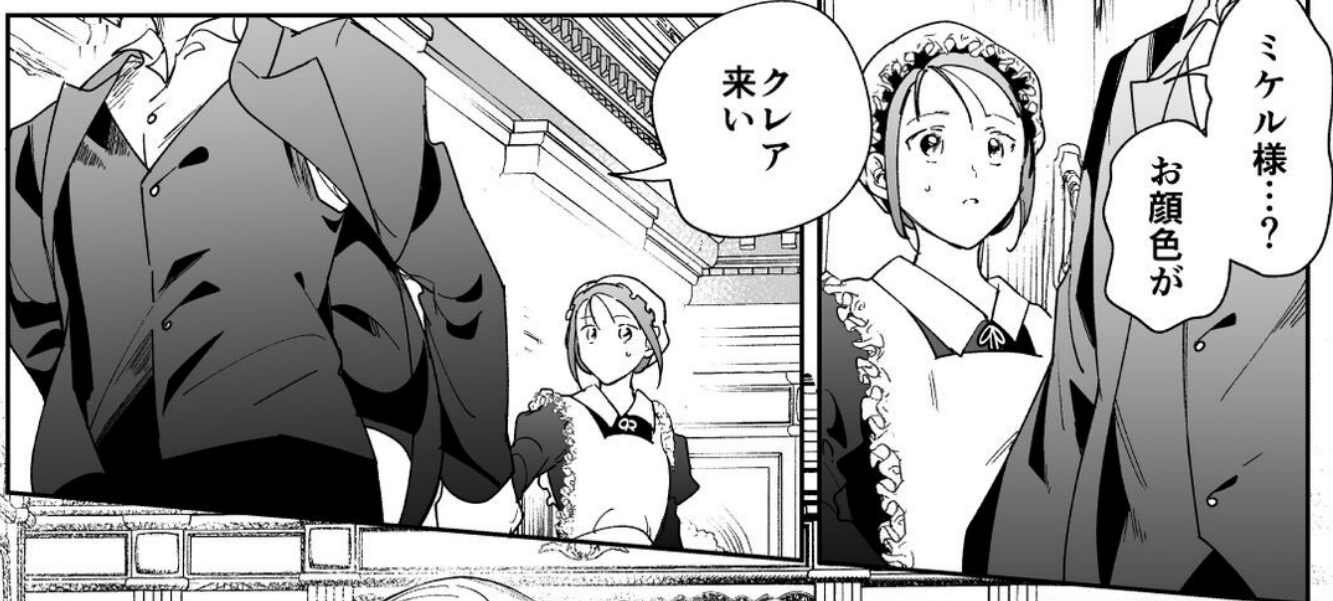
継母様達も
参加してるのかな

……

お帰りなさいませ

旦那様

ミケル様





あれが
お前の家族か

お前の妹は
お前に似てないな



リュシエール
侯爵
お目にかかれて
光栄です

これは娘の
シルビアです



こんな
不機嫌な
ミケル様
初めて見る
初め

普段より
荒々しい
言葉

どうしよう

…何も
反応無しか



僕に女っ気が
無いからと

近頃は
縁談の話が
増えているが…

夫人からも
着飾った娘を
勧められたよ



?

お前は誰かと
僕が誰かとも
婚約しても
良いの？

…それは…
どういう…？

私が見る
ことでは
ありません



……

そう言う
と
思った…

僕は
ずっと
想って
る人
が
いる
んだ

えっ

そ

そう
だっ
たん
です
ね…！

それは
私の
家族
が
失礼
を



：僕は
クレアが
良いんだよ



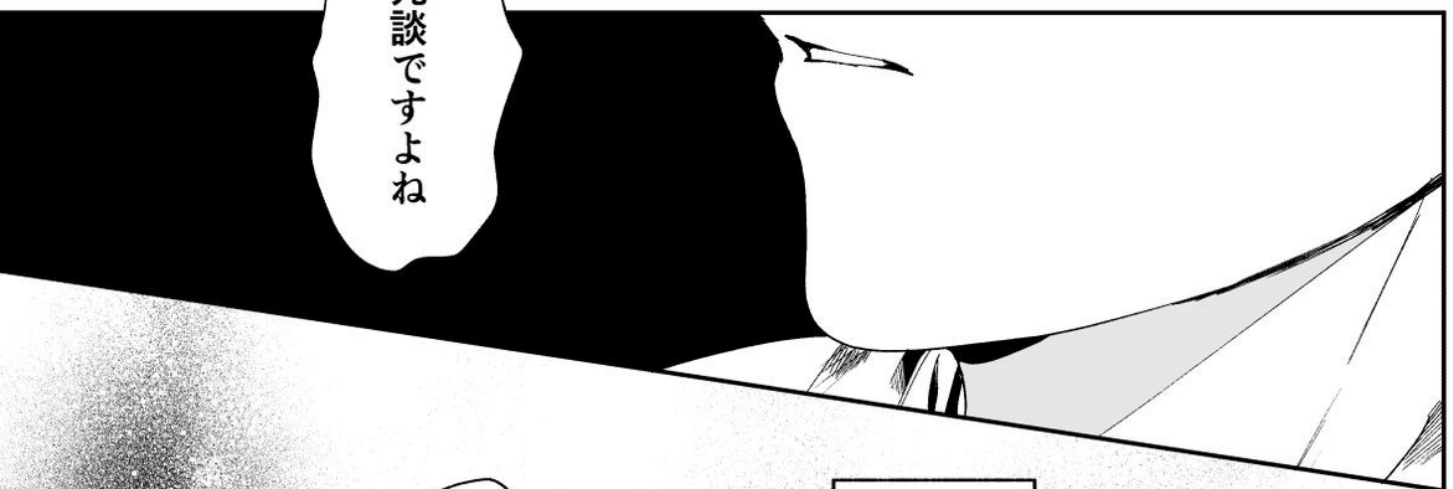
えっ…?!



私が良い？

そんな
こと……

御冗談ですよ

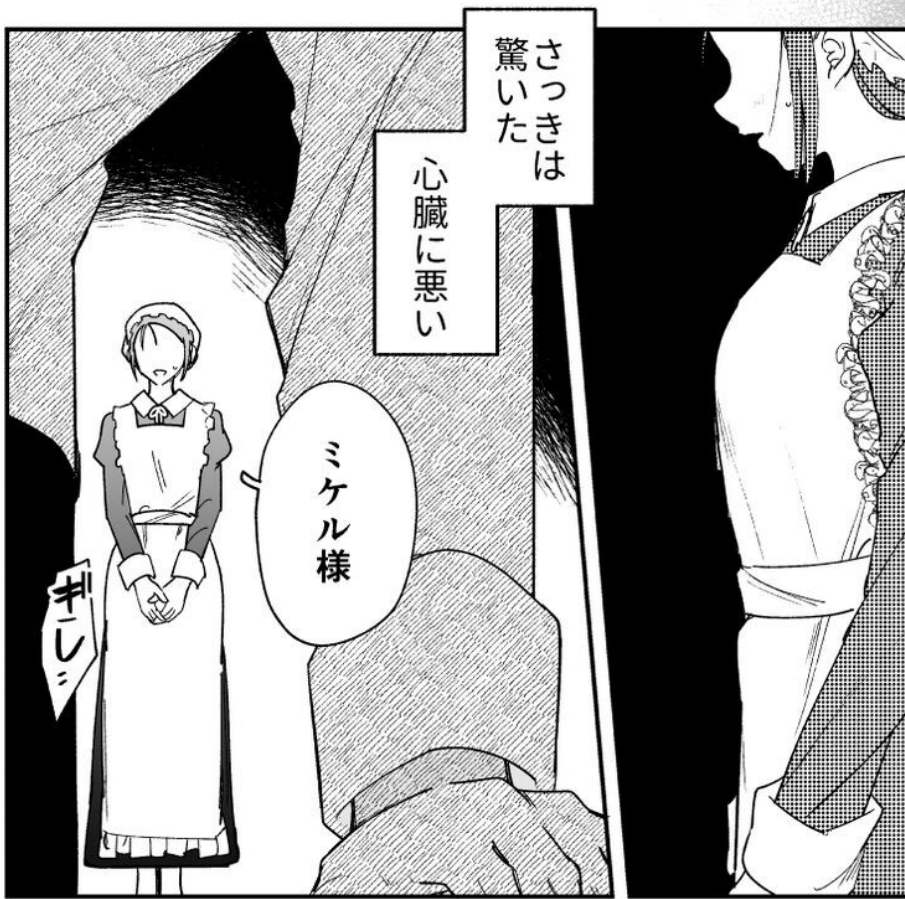


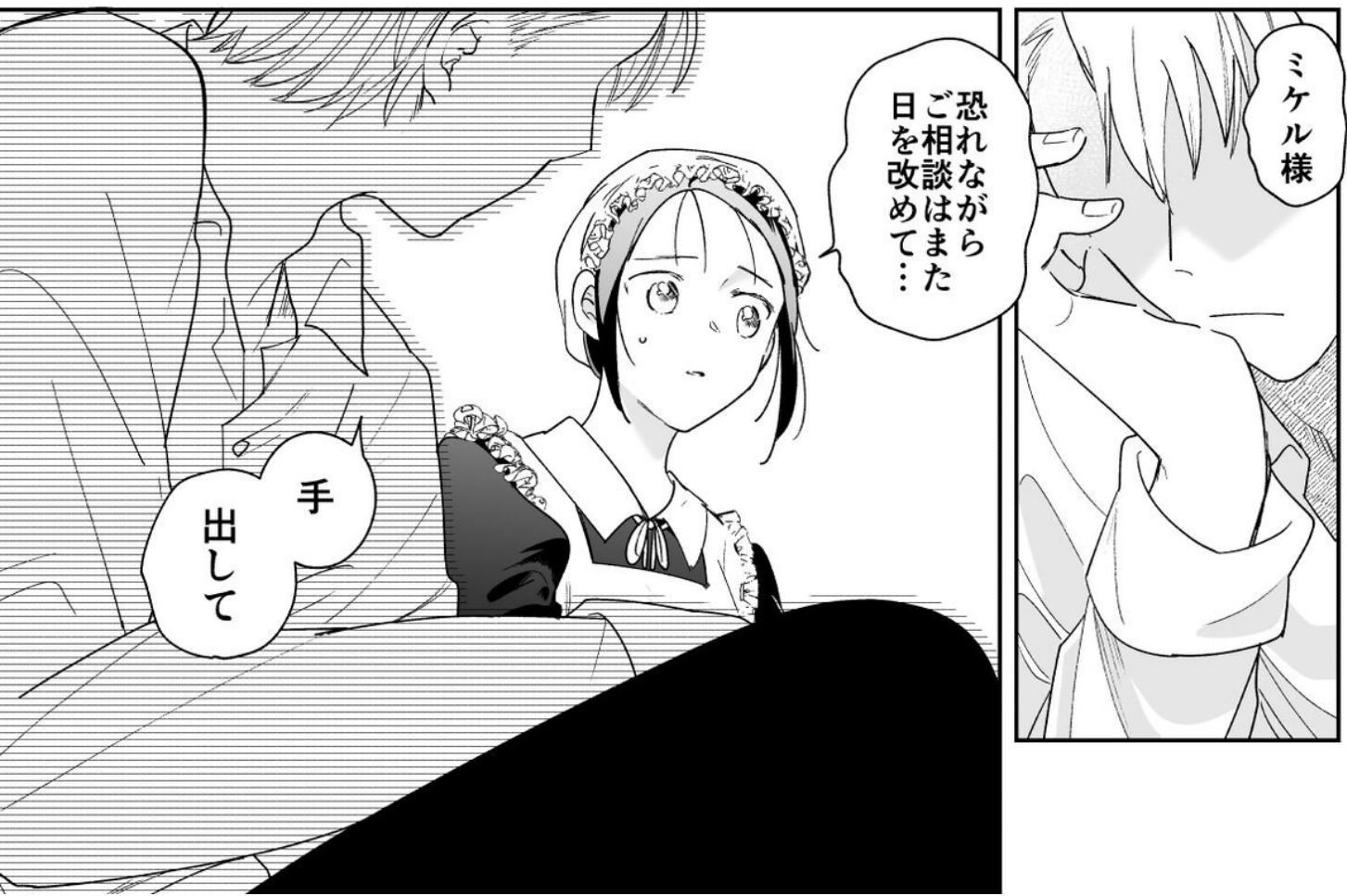
ミケル様が
こんな冗談を
言うなんて

本当に今日は
どうされたの……

そう……

……相談がある
クレア







あの…？

ええ…



早く



…手？



先程も
そうですが

…の…

ミケル様？

こんな汚い手に
触れるのは…

やめた方が

…の…

…の…

…の…



クレア

近いです!

.....!?

汚くない



クレア達のように
幼い頃から
見知ってら
女性別だよ

でも
それ以外の
女性が苦手で

前から
困ってたんだ

え?

え?



：実は僕は
女性が
苦手なんだ

え?



僕は爵位を
継がなければ
ならない…

こんな事実
恥ずかしくて
他言するの
は控えていた

教えたのは
クレアが
初めてだよ

…そうだったん
ですね

それは
お辛い
お気持ちを…



うん

…だから

僕が女性に
慣れることが
できるように

協力して
ほしいんだ



女性に
慣れる…?

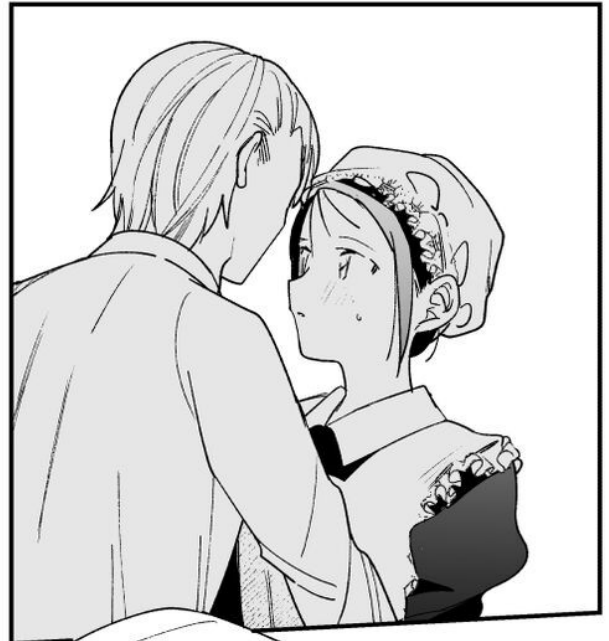
ああ…

だから
こうして触れて
いたんですね…!

うろたえて
しまい
申し訳
ありません

私でお役に
立てるの
でしたら
大丈夫です





じゃあ

服

脱いで

全部

え…？



ミケル様

それは御冗談…

さっき了承しただろ



早く



だから

今はただの使用人で

卑しい女の娘だと
言われて育って

私を産んで
すぐに亡くなった母

……





拒否権
なんて...

本当に脱ぐと
思わなかった...

!?



隠さないで
下も脱いで

仰ったから...

お

!?
ミケル様
これ以上は...

カアアア



ぱ

!?

…まあ
いいか

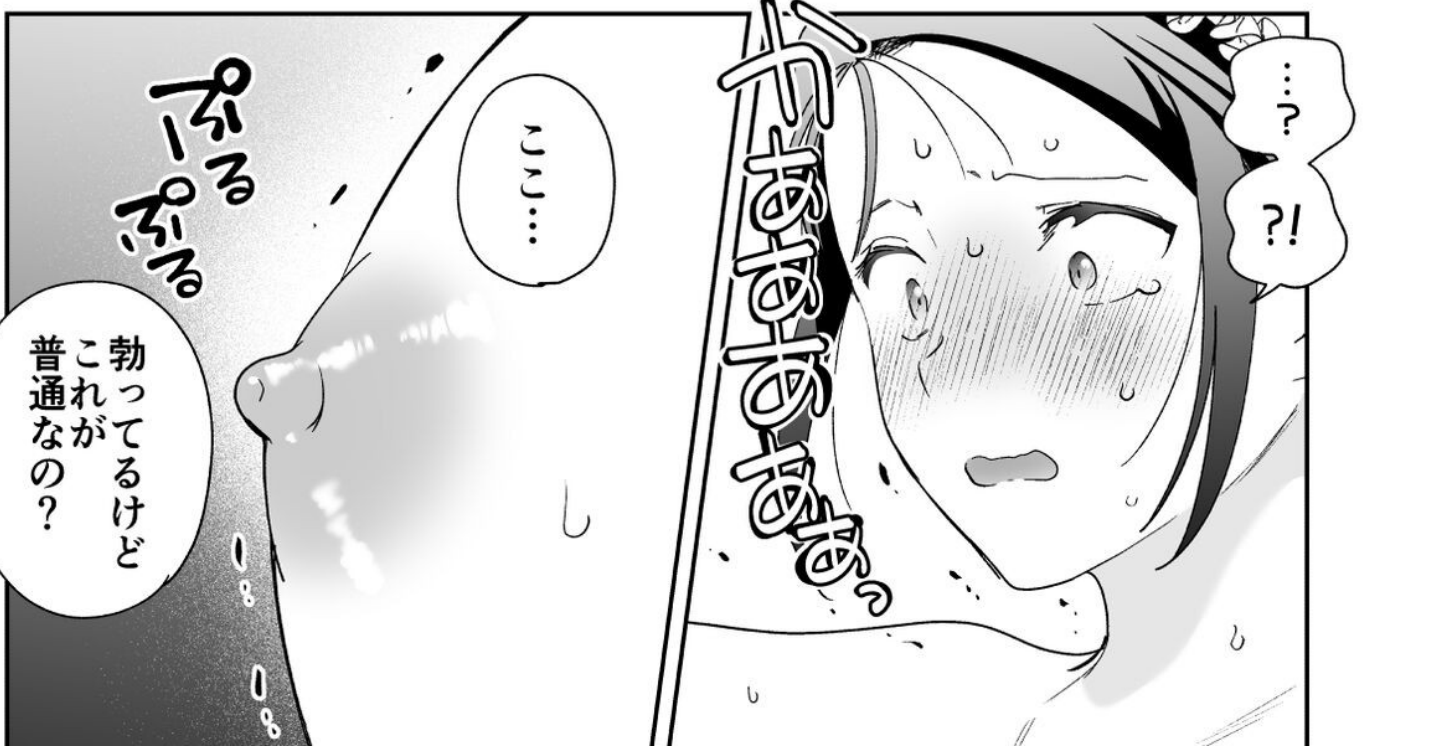
下と帽子だけ
残ってるのも
逆に…悪くない



!?

んん

…綺麗



ぷんぷん

…んん

…?
?!

勃ってるけど
これが
普通なの？



女性に慣れるためと
仰ったから私は
こうしているの…

恥ずかしいことは
あまり仰らないで
頂けると…





両手はその位置で

うん...

?

そう...

...自分で胸強調してるのわかる?

.....っ

これは何?!

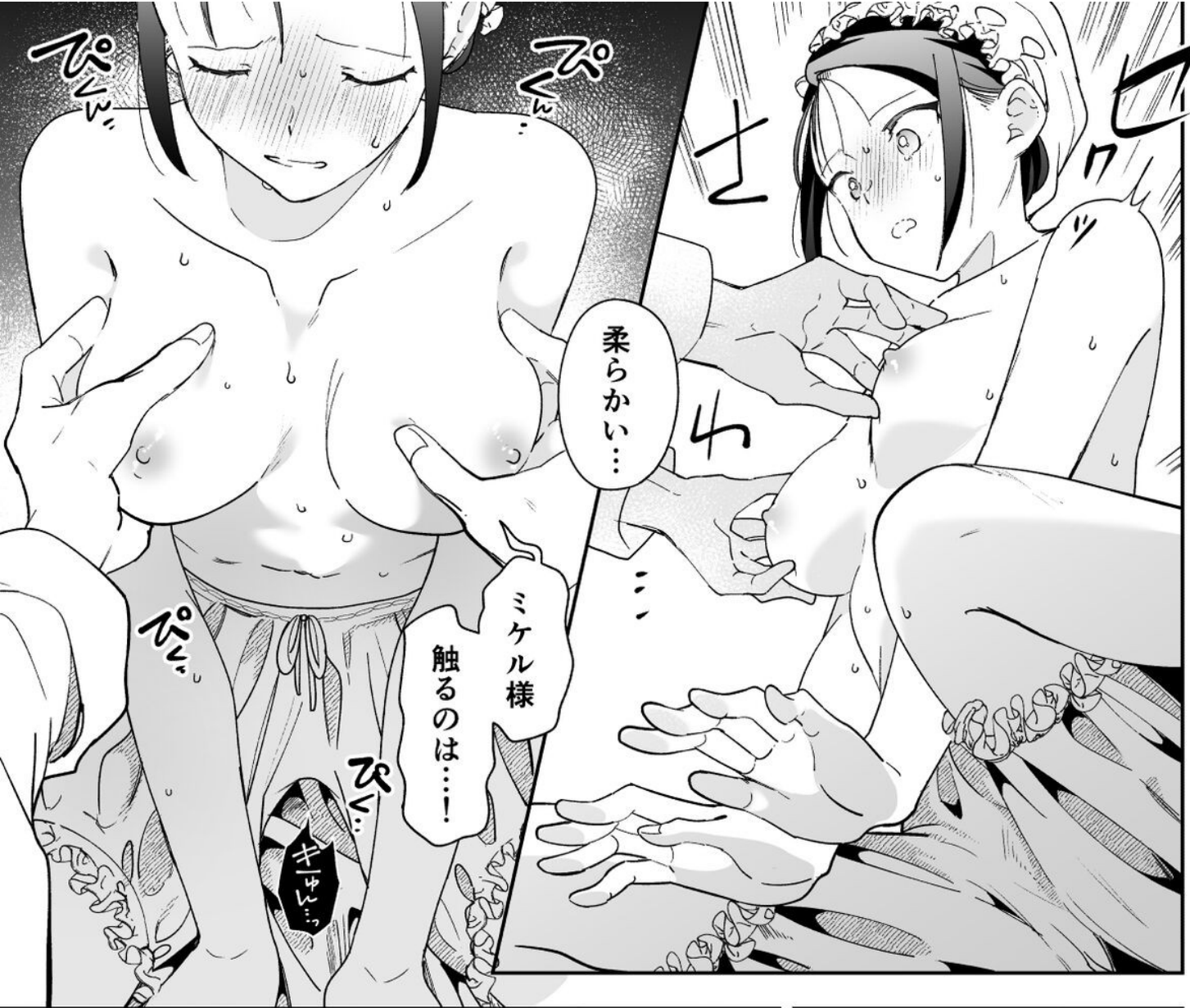
はしたない!

恥ずかしい...!

こんなことしていいの...?!

ミケル様本当に女性が苦手なの...?!







だめ...

です



それ

ミケル様...



...そういう反応
ずっと待ってたを

むずむずする
くすぐりたい...
じゃなくて
もっともっと
続けてほしい...
ような

ぐわん

...クレア

ぐわん
ぐわん

ぐわん



下も
見たい

した...

はあ

はあ

キレッ



それは...

申し訳
ありません

はあ

はあ

夫になる殿方にしか
見せては駄目だと...



はあ

はあ



何それ

...

キレッ

僕は
論外って
こと?

!?

はあ

はあ

はあ



もしかして

駄目

この刺激
変になる...

：僕が
知らないだけで
操を立てた相手が
いるとか...

はあ

はあ

...

はあ



クレア...

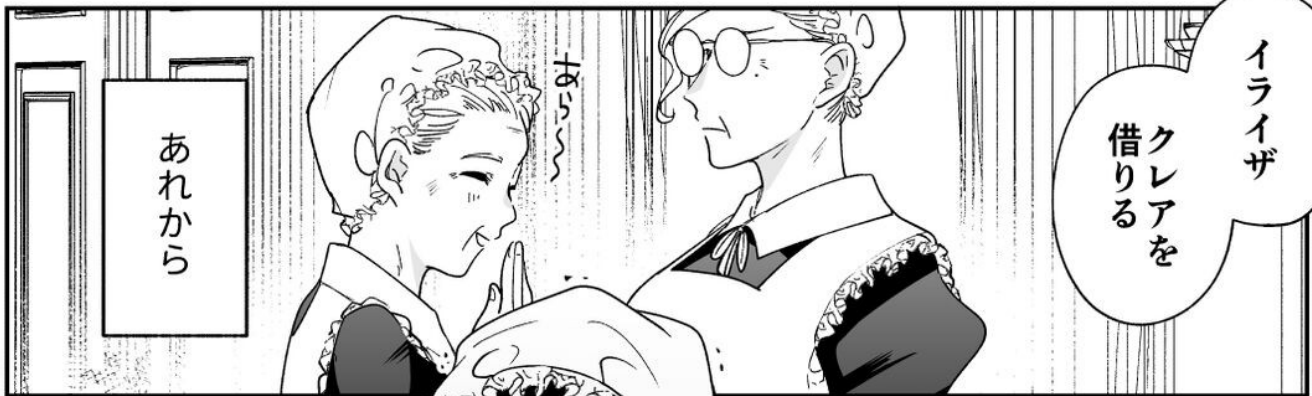
可愛...

.....?



来い

クレア



あれから

クレアを
借りる

イライザ



私の体
に触れた
ように



ミケル様は度々
私を呼び出し

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ



…わかりません

…



気持ち良い？

クレア



異様な光景

これが
ミケル様のための
必要な行為なのか
わからない



!?

カチカチ

でも
ミケル様が
嘘をつく理由が
無いから

きっとこれは
正しいこと



ちゅちゅ
ちゅちゅ
ちゅちゅ

ちゅちゅ
ちゅちゅ
ちゅちゅ

ちゅちゅ
ちゅちゅ
ちゅちゅ



ミケル様…

は…
は…



ちゅちゅ
ちゅちゅ
ちゅちゅ
ちゅちゅ
ちゅちゅ

23







ミケル様と
あんたが
好い仲って
本当？

え…

なんで
そんなこと…

…そんなこと
決して
ありえませんよ

そうなんだ

それなら
良かった

実はずっと
誘いたかったん
だけど

仕事中に
女を口説く暇が
あるのか







そんなこと
決して
ありえませんか…か



怒って
いらつて
しゃる？



あいつは
臨時で雇った
庭師だったな

解雇する

えっ!?

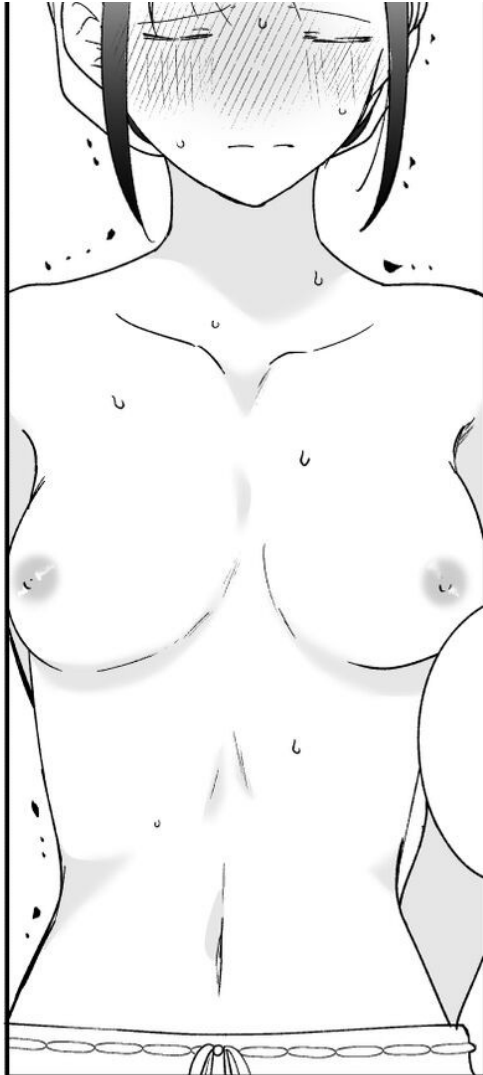
もう
一部の土地の
管理も
任されてる

屋敷の人事に
口を出しても
問題無いだろう



普段から
女遊びが多いと
聞いていたが

お前に
手を出すのは
看過できない



……
そんなに
震えて

僕が怖いのか？



み

ミケル様……

これは本当に
必要なこと

なんですか？



……
あいつが
お前と話しながら
何を考えてたか
分かる？

？

びん
びん



……そうだよ



服の下は
どうなってるん
だろう

どんな形で
どんな色で

触れたらどんな
反応をして
くれるだろう

あいつは
そんなことを
考えてるんだよ

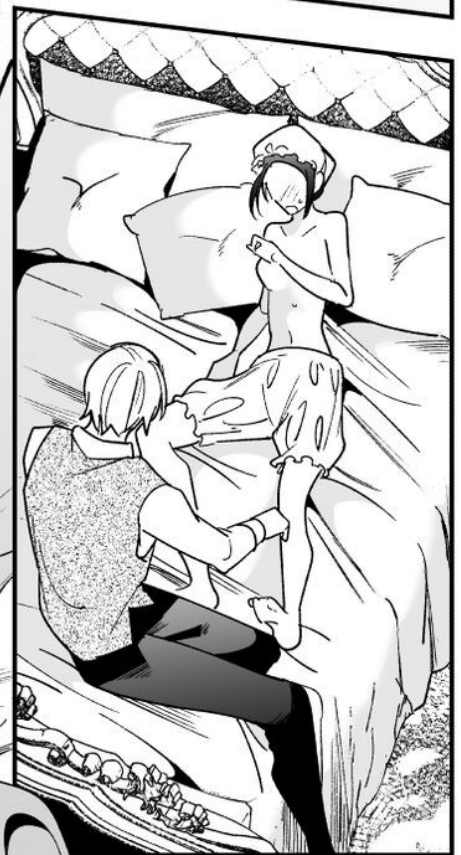
ほっ
そ
そんなこと...



やっ

ミケル様!?

ほっ





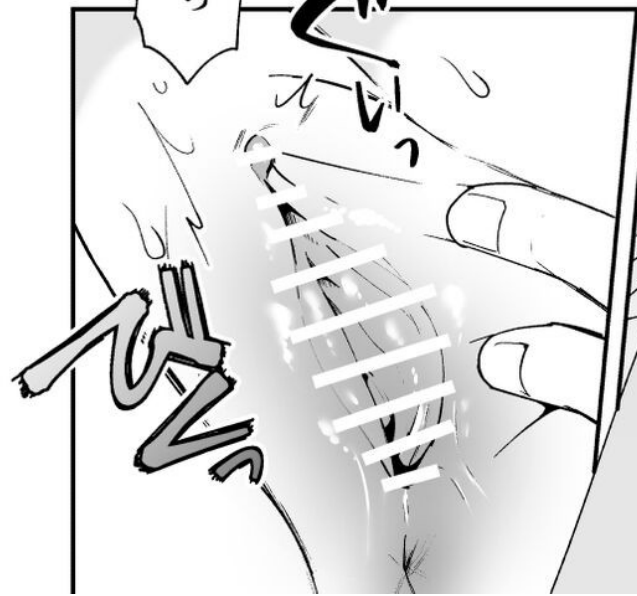
は、

や



!?

あっ



駄目です



はっ

はっ



子爵家から
手紙が届いてます

クレアさん



子爵家から届くのは
何か珍しいですね

…何が書いて
ありましたか？



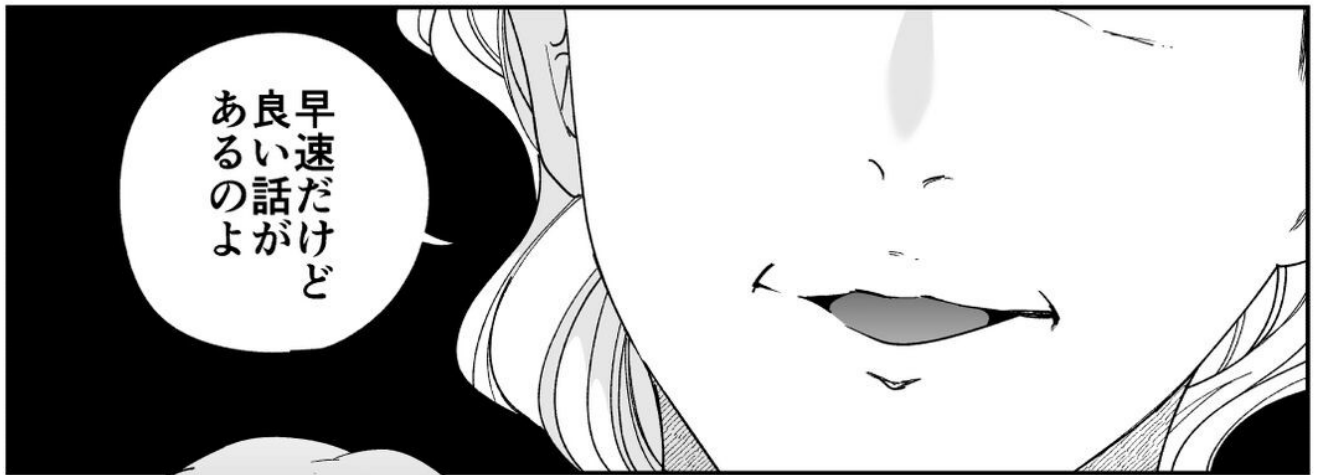
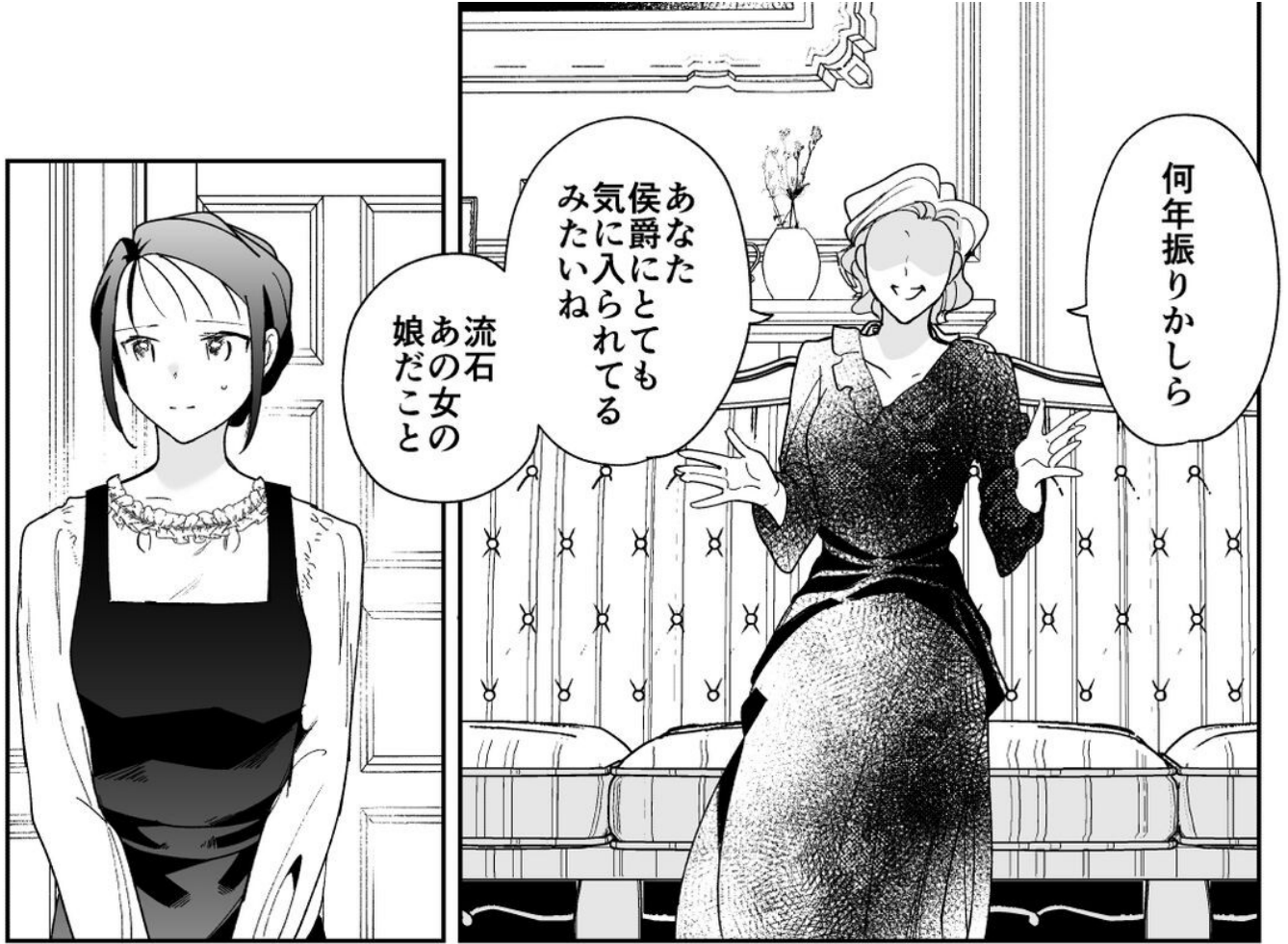
継母様が
次の休日に
会いに来ると
言っていました…

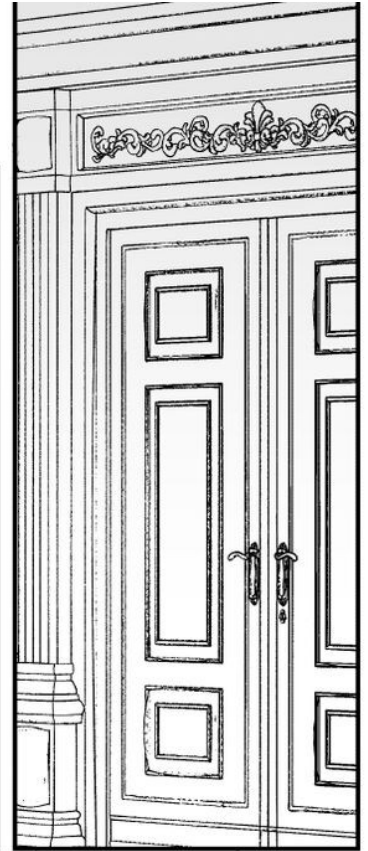
あの日から
ミケル様と
会話していません

雇われていて
嫌だと言張して
ばかりの私に

愛想が
尽きたのかも
しれない

クレア





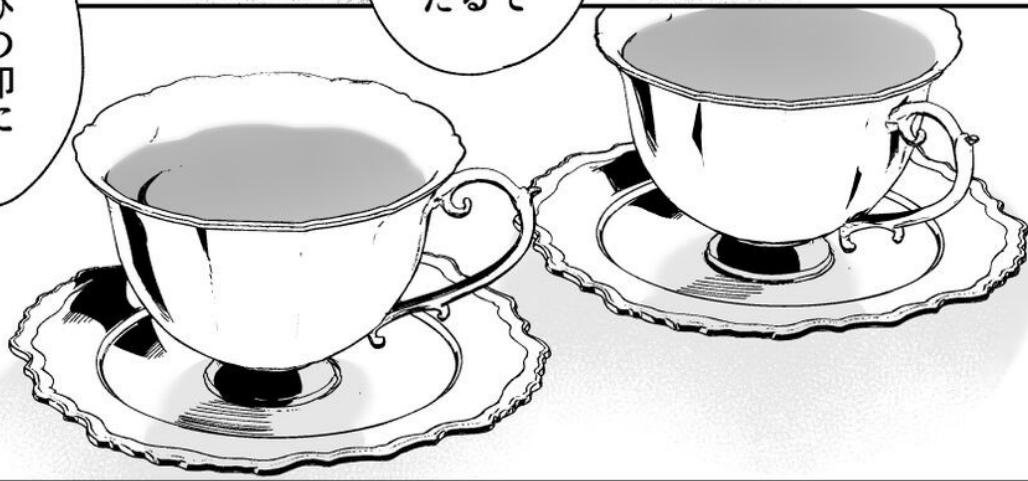
あのときの
ミケル様は
怖かったけど

きつものこと
いつもただけ
延長だったの
だから

謝る必要なんて
無いのに…

西方の国で
流行ってる
紅茶なんだ

詫びの印にも
クレアの分も
用意した



ほら

飲んでくれないと
僕が恥をかく
用意した

座って
ゆっくり
話そう

それは…

…





……では
失礼します



話を
聞こうか

良かった
お前の好みの
味だと
思ってたんだ



どうだ？

美味いか？

はい

美味しいです

甘くて
飲みやすくして……



頂きたいのです

…暇を
いとま



縁談が
来てるらしい
じゃないか

えっ



知ってるよ

やっぱりか



継母様から
家に
帰るようにと…

…理由は？



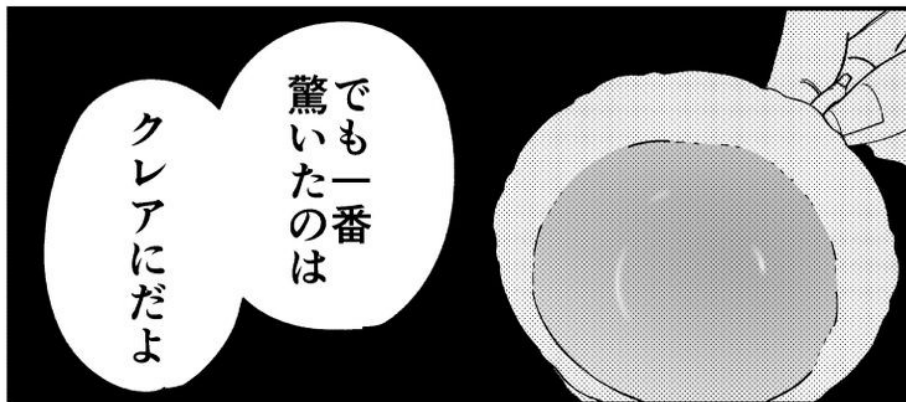
え…
何故ご存じで…

齢六十を迎える
御高齡で
無茶な求婚を
したものだ

承諾する
子爵夫人にも
呆れたよ



キャサー
ウッド伯爵
だろう



でも一番
驚いたのは

クレアにだよ



お

恐れながら
申し上げますが…

ミケル様は十分
女性に慣れたかと
思います

だから…

…は？



僕のことには
あんなに
嫌がってたのに
色狂いの爺なら
良いんだ

クレアは
…そんな僕が
嫌だった？



暇いとまなんて
許ゆるすわけ
ないだろう

あんなの
嘘うそだって
まだ分わかっ
てなかつたの？



ミケル…

ぎゅぎゅ…？

あれ

体の力が
抜けて…

覚えろ！

あめめっ



これっで
殿方の…？

はいっちゃった…？

これで

…純潔じゃ
なくなった







早くクレアは僕の声高にたい

クレアも僕で良いだろ…?

…まだ嫌がるの

…うう

これじゃ

母と同じ…

なってしまいます



…私の母は
子爵家に仕える
使用人でした

私を産んで
すぐに
亡くなりましたが
妻がいた
父を誑かした
女だと
言われて

はま
はま

はま



クレア…？



私は
母のよう
に思っ
ていた
のに…

なのに
こんな
こと
なっ
てし
まう
なん
て



…
僕はお前以外
娶らないよ…？

お前以外
必要無い



ミケル様は嘘をつく人です

信じられると思いますか…？

それはお前が
あんなことを
言うから…

ポロポロ



…
どうしたら良い？

ずっとずっと
出会った時から

…好きだよ



素晴らしい名前だ

クレアという
名前は
母が付けたん
だろう

：お前の
母のことを
調べたことが
ある

ぐす...
ぐす...

...
...
昔



どこの生まれで
どういう経緯で
子爵家に
仕えていたかも
知ってる

ただお前の
母が
人間でも
お前には
関係無い
僕には



ミケルさまっ…

はっ

あ

ああ

実は父からも許可を得ている

お前に正式に求婚する許可を

ん…



くそ…?!

本気でクソ爺に嫁ぐつもり?

それは…

そんなことならなるくらいなら



はき はき はき



おのづから

私に選択権なんて

このままずっと繋がってしよう

…あっ

無いはずなのに

ミケル様…!?

ムク

早く僕を選んで

はあ...

は？

は...





僕の可愛い
クレア



次期侯爵様が
暇乞いを許さない

次期侯爵様が暇乞いを許さない

2023年4月7日 発行
発行：OTIBA
著者：喪みつ

画像の無断転載・複製・複写は禁止です。